

分野 ( 2 ) 気管支ぜん息・COPD患者の日常生活の管理、指導に関する調査研究

研究課題名 : ③客観的指標によるアドヒアランスの評価

申請課題名 : 小児気管支ぜん息の自己管理支援に資する新しい客観的なアドヒアランス評価指標の開発と確立に関する調査研究

調査研究代表者氏名 : 藤澤 隆夫

評価コメント

- ・ぜん息・COPDの患者の長期管理の上で、患者のアドヒアランスは非常に重要で、その実態を明らかにしようとするのは意義のある研究テーマである。
- ・アドヒアランス評価指標を作成する試みであり、既に報告されたものがあり、その小児版を作成する企画である。
- ・日常診療の場で把握しにくいアドヒアランスの状況を、客観的指標と照合した簡易な質問紙によって、信頼性をもって判定できるツールの作成は順調に進行しており、多くの施設で使用可能になれば、患者のコントロールの改善に大いに役立つ。
- ・アドヒアランス評価指標の開発はもう一歩というところか。
- ・アドヒアランスを成人ぜん息のツールと別個に作成する作業にもう少し時間を必要とすると思われる。
- ・アドヒアランスには多くの因子が関与しているので、アドヒアランスの実態と共にその背景因子まで調査するのであれば、それに関した別個の調査票を作成し、医師や看護師以外のスタッフも調査に参加して、患者自身の問題のみならず、家庭環境など多角的に解析する必要がある。
- ・アドヒアランス評価質問票の開発は、重要な問題となっているが、実際に使用する場面が、環境保全再生機構の健康相談事業の中だけではなく、一般の臨床現場でも使い易いようなシステムを同時に考えていって欲しい。
- ・第9期までに蓄積した小児ぜん息の診断／治療評価の客観的指標に関する成果を、新たなアドヒアランス評価ツールに取り入れて新規性を打ち出してみる必要があると思われる。
- ・アドヒアランスが悪いために症状が安定しないのか、治療が不十分であるために安定しないのかを鑑別出来る様な指標の開発が望ましい。
- ・42項目は簡易とは言えず、項目過多ではないか。一部には20または12問の評価用紙があるがいかがか。
- ・指導のために各答えに対しての対応策が必要ではないか。